

シーズ分野;基礎医学 生化学

研究シーズ;高血圧に対する新たな治療開発を目指した研究

— Dipeptidyle Peptidase (DPP) IIIをターゲットとして —



滋賀医科大学 生化学・分子生物学講座 分子病態生化学部門

教授 扇田 久和

新たな高血圧治療薬の可能性」

■関連文献・特許

- ・Hypertension. 2016; 68: 630-641
- ・特願2015-121371

■研究概要

高血圧は日本において約3,000万人の人が該当すると言われている。高血圧に関わる重要なホルモン(アンジオテンシンII)をターゲットとした降圧薬(ACE-IやARBなど)が多数臨床応用されている。しかし、複数の降圧薬を用いても血圧のコントロールに難渋することはしばしばあり、更なる降圧薬の開発が必要と考えられている。

当研究室ではDipeptidyle Peptidase (DPP) IIIという酵素が、アンジオテンシンIIを分解する生化学的性質の詳細と生体内で降圧作用を有することを初めて明らかにした。

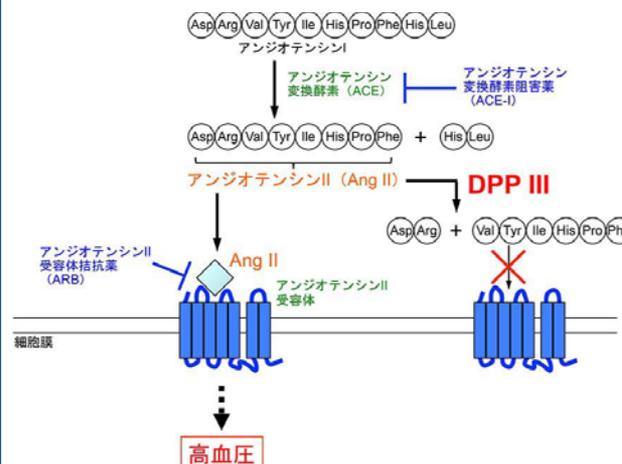
■応用展開・共同研究テーマ例

- ・DPP IIIの作用を代替する化合物の探索
- ・新たな高血圧治療薬の開発

■研究者からのお願い(ニーズ)

- ・高分子医薬の開発を得意とする製薬企業との共同研究
- ・化合物ライブラリーを使えるような製薬企業等との共同研究
- ・Earlyステージからの共同研究

従来のACE-IやARBとは異なる作用機序で降圧作用を有するDPP III



DPP IIIはアンジオテンシンIIに直接作用して分解し、受容体と結合しないようにする。これにより、高血圧が抑制される。

お問い合わせ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携担当

077-548-2847 E-mail;hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp